

妙法華寺便り

令和4年1月号

◇ 行事報告 ◇

12月18日(土) 摩利支天月例祭

コロナ感染も減少してきた事を受けて、午前10時より読誦会、引き続き摩利支天堂にて摩利支天月例祭を執行しました。令和3年最後の式典も無事に納めることが出来ました。

法話では、次のようなお話がありました。

終年と言うことで、本堂での読誦会で観世音菩薩普門品第二十五を拝読いたしました。この中に、「悲体戒雷震

慈意妙大雲 澍甘露法雨 滅除煩惱始」という偈文があります。観音さまは、「戒め」という雷鳴を轟かせ、「慈しみ」の雲から素晴らしい「法の雨」を降らせて、「煩惱」という炎を消していくという偈文であります。仏教という「法の雨」は、草木を潤すように活力を与えてくれるだけでなく、燃え盛る煩惱の炎も消してくれるのです。一年間の罪障を消滅する意味も含めて、この偈文を唱えることがありがたいと思います。

日蓮宗の百日の修行や最上稲荷の荒行でも水行を行います。この水行を行う直前に水を掛けながらこの偈文を含めて「真観清浄観 廣大智慧観 悲観及慈観 常願常瞻仰 無垢清浄光 慧日破諸闇 能伏災風火 普明照世間 悲体戒雷震 慈意妙大雲 澍甘露法雨 滅除煩惱始」と唱えて水行を行います。「この身の罪障を取って下さい」と願い、行うのです。また、除夜の鐘で百八つの煩惱を除き、新年を迎えては如何でしょうか。

令和3年もコロナに明けてコロナに終わる年でした。檀信徒の皆様も手洗いうがいを習慣にして、罹患することなく過されますよう祈念いたします。オミクロン株の感染も危惧するところです。体調には十分留意させて新年をお迎え下さい。

1月1日(土) 除夜の鐘

午前零時より約20名の方が参加され、お題目を唱えながら除夜の鐘を撞き、罪障消滅を願い、新たな気持ちで新年を迎えました。



難波総代より、「沢山のお参り、ご苦労様です。コロナがなかなか収束しませんが、お寺の行事も工夫しながら行っています。今年も、お寺を盛り立て、また皆さんにとっても、今年が良い年になるよう頑張りましょう！」との声かけがありました。

毎年、住職不在の中、皆様のおかげで、今年も気持ちの良い新年が迎えられました。有り難うございました。



◇ 令和4年元旦へ ◇

仏像のほこりを落として、御宝前のお掃除をし、幣束、注連縄を取り替え、正月飾りができ、妙法華寺も新年をお迎えする準備が整いました。

令和4年が皆様にとって良き年となりますよう、更に新型コロナウイルスが早期に収束しますよう祈念いたします。

◇ 行事案内 ◇

開運星祭（厄除け祈願）

2月4日（金）午前10時より本堂にて、「年中安全、厄除け諸難除け」の特別祈禱を行います。

当日は、申込された御札一体一体にお香を通し、木剣修法を行い、御札に魂を入れます。お申し込みがまだの方は、至急お申し込み下さい。

なお、お申し込みをされて、当日ご参加出来ない方には、後日お送りいたします。

摩利支天月例祭

2月18日（金）、※3月19日（土）4月19日（火）

午前10時より執行いたします。

今年の3月と4月は日にちが変更になりますので、宜しくお願いします。

多くの摩利支天様がお座り頂いた御宝前にて各家の家内安全、身体健全を祈願し、お加持を受けます。コロナ対策を取りながら執行していますので、皆様のご参加をお待ちしております。

なお、お供えは、摩利支天様一体千円以上、お賽銭百円以上を申し受けます。

合 掌